

南アジア
地球温暖化の影響

ジャベッド・イクバル

南アジアは地球温暖化の影響をより受けやすい地域である。地球温暖化の問題が克服されなければ近い将来この地域は気候の変動の深刻な影響を被ることになる。アジア開発銀行は「東南アジアの気候変動の経済学——リージョナルレビュー」なる調査報告書のなかで気候変動の予想値と将来引き起こされる問題について述べている。この報告書によると東南アジア諸国は気候変動によってもたらされる問題を克服するためにはすぐにでも諸対策をとる必要があるとしている。東南アジアは二〇世紀の最後の五〇年間において気温が〇・一

〇・三度上昇したという。また降水量は三ミリメートル減少した。気候の変化により深刻な異変が起きている。水の不足、山火事の増加、沿岸域資源被害、感染症の蔓延、洪水、地表の流出、干ばつなどである。これらは人々の生活と財産に大きな影響を及ぼしている。

二〇世紀の終わりに東南アジア地域は世界の温室効果ガスの二二%に相当する量を排出していた。この数値は一九九〇年のそれに比べると二七

倍にもなる。しかし、それにもかかわらずこの排出のレベルは地球全体で見た平均値よりも高いものの、先進諸国の数値に比べればまだ低い。世界の温室効果ガス総排出量の一五%を東南アジア地域の農業が、また八%を同地域のエネルギー関連産業が出している。二〇世紀の最後の一〇年間排出量は八三%増加した。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によると地球の温暖化は〇・七六度増加した。それは海の水位の上昇ともたらすとともに異常気象をもたらす。IPCCによると二一世紀末までに地球の気温は二〇世紀末にくらべ四度高くなることである。そうなれば人間や野生生物への危機が訪れるだろう。

ひろがる大気汚染によりインドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムの経済は打撃を被るであろうと国際機関のレポートは述べている。オゾン層は紫外線をカットする役割を果たすが気候の変動により徐々に減り続けている。

アジア諸国では森林が乱伐されており、結果、温室効果ガス排出量の増加をもたらしている。森林伐採の問題を克服し同時に温室ガス排出減少に寄与する植林を推し進めることにより東南アジア地域の森林の保全が強まるだろう。また別の異なったアプローチをとることで温室効果ガスの問題を解決できよう。例えば、消費エネルギーの効率的な機械設備、照明の設置、近代的な国産の工業製品の使用、そして環境への負荷が少ない交通輸送手段の使用などである。このような手段によれば温室ガスの排出は四〇%削減できる。上記にかかげた国々は地球温暖化への取り組みを行ってきた。そしてこれら諸国は水資源管理、共同海

洋エコシステムにおける相互の協力体制を敷くことにより気候変動に関する様々な困難に対処することを促進している。

二酸化炭素の全世界の排出量のうち先進諸国の排出量が大半をしめる。アメリカは二四%、EUは一四%、そして中国が一三%である。ある調査報告書によるとEUの二酸化炭素排出量は一人当たり一〇トンである。これに対しアメリカでは二〇トンで、これは二酸化炭素排出量の世界平均値の六倍も高い量なのである。この報告書によるとコンピュータだけでなく全世界で四五〇〇万トンの二酸化炭素を排出している。パキスタンはさいわいにしてほかの多くの国に比較して炭素の排出量は少ない。

パキスタンと異なり、インドでは炭素排出量は高い。京都議定書によれば、二〇一〇年までには各国政府は一九九〇年のレベルにまで二酸化炭素排出量を抑えなければならない。地球温暖化はある特定地域の問題ではなく地球的な問題である。すべての国が協力して努力することによりはじめて気候変動の主要因を抑制できるのである。従って各地域の国々が地球温暖化の問題を政策の最優先課題として位置づけることが必要である。それによつてつぎの世代の人々が安心して暮らせるようになるのである。

Javed Iqbal / アジア経済研究所 イデアス外国人研修生

Research Officer
Economic Affairs Division
Ministry of Economic Affairs and Statistics (経済問題・統計省)
出身国：パキスタン